

視察報告会に5万人参集

JPC 70th

クロニクル

第6回

chronicle

海外視察団派遣〈下〉

■「重任」と「念願」——で構成された。

海外視察団第4陣と一行はアメリカで石として第1次トップマネ油会社や鉄鋼会社、投資メント視察団が19資会社などを視察、ハ55年9月6日、渡米——バード大学で講義のした。団長は日本生産聴講とディスカッション、ワシントンで各政性本部会長の石坂泰三、府機関の訪問など40日（東京芝浦電気社長）。間には、当時のわが国経済界を代表的にこなした。石坂は帰国後の報告



石坂泰三会長(中央)を団長に第1次トップマネジメント視察団が渡米した(1955年9月6日)。

会、出発に当たっての心構え、団長としての責任を次のように表している。

「ヨーロッパの各国

は、この視察団の派遣

によって非常な成功を

収めてい

る。われわ

れの場合、

たいして効

果がないと

いうことで

はまことに

申しわけの

ない次第

で、なんと

■170冊の報告書と

関連団体設立

各チームは帰国後、

東京をはじめ大阪や名

古屋、福岡など各都市

に達する。

その成果は大きく二

つ。最初の3年間の参

加者数は計5万人。生

産性向上に対する渴望

といった「精神的側

面」。もう一つは、経

営組織やマーケティング、IE(インダスト

リアル・エンジニアリ

ング)といった「技術

的側面」だ。

さらに視察団派遣が

契機となつて、「日本マ

までの11年間で計17

0冊。それぞれB5判、

平均240ページ、延

べ4万1000ページ

に達する。

その成果は大きく二

つ。最初の3年間の参

加者数は計5万人。生

産性向上に対する渴望

といった「精神的側

面」。もう一つは、経

営組織やマーケティング、IE(インダスト

リアル・エンジニアリ

ング)といった「技術

的側面」だ。

さらに視察団派遣が

契機となつて、「日本マ

1957年)、「日本

インダストリアル・エ

ンジニアリング(IE)

協会」(同1959年)、

「日本消費者協会」(同

1961年)、「日本包

装技術協会」(同196

3年)という関連団体

が次々に設立された。

(文中・敬称略)

【参考文献】『生産性

運動10年の歩み』(日

本生産性本部、196

5年)、『生産性運動

50年史』(社会経済生

産性本部、2005年)